

本の扉

1月号
2024年1月26日

前橋東高校 図書委員会
2年6組

今年度もあと3ヶ月足らずとなり、英検や受験など様々な試験に挑む人がいると思います。寒い日が続いていますから、風邪には気をつけて努力が実る年にしましょう。

さて、新しい年を迎えて成長するために今回は新たな気づきを得ることができて、考えを深められるような本を紹介したいと思います。

おすすめの本①

『勉強が面白くなる瞬間』 著者：パク・ソンヒョク 訳：吉川 南 ～勉強に手遅れなんて、ない！～

この本の著者は子供の頃はあまり勉強もしていませんでしたが、中学生の頃にそれは大変だと気づきものすごく勉強し、難関大学に合格しました。韓国は言わずと知れた学歴社会です。学歴がその人の人生をほぼ決めるため、大学入試は韓国をあげての一大イベントです。

この本は自己啓発エッセイであり心に訴える内容が多いことで「勉強の本質と意味」を考えさせられます。勉強するということに対しての考えが変わるかもしれません。



おすすめの本②

『嫌われる勇気』 著者：岸見一郎 ～いかなる経験も、それ自体では成功の原因でも失敗の原因でもない～

この本では、アドラー心理学の観点から人の悩みは対人関係からくる悩みであり、『勇気』さえあれば人はどんなときにも変われると書いています。さらに、良い経験とと思っていることも、悪い経験とと思っていることも、自分のその時の目的に合わせて自分の都合の良いように解釈しているだけで、結局は無意識的に行っていた過去への意味づけによって今が決まっているため、今が不幸だと感じるのも自分がそのように思いたいだけだからと書いています。

青年と哲人の会話が書かれていて、青年の質問に対して二人が正面から話し合うため、自分の疑問も消えていくとてもわかりやすい本です。



貸出状況をお知らせします！ 貸出統計（～1月24日）

	1組	2組	3組	4組	5組	6組	計	職員
1年	29	89	90	34	123	－	365	236
2年	79	172	61	113	58	152	635	
3年	60	142	66	43	38	－	349	
						合計	1,349	1,585

最近気になる～社会情勢～

最近はイスラエルの紛争についてのニュースをよく見るようになりました。中国でのウイグル族への迫害も続いています。

遠い昔から、民族間の軋轢は世界情勢を大きく左右し、これまで幾度となく、中東・アラブ地域の対立やアフリカの内紛など、紛争の火種となってきました。

複雑な国際情勢の中でそれらを理解するために必要なことは何でしょうか。それは「民族」への理解です。紛争や迫害を引き起こすのは民族の違いによるものです。本書は民族をキーワードに、歴史的観点から今日に至る火種の要因を地図や図解を駆使して解説しています。



『地図でスッと頭に入る』シリーズ（昭文社）



いまの国際問題を読み解くうえで不可欠な最新の世界の軍事情勢について、地図を多用してわかりやすく解説する、「世界のいま」を網羅した一冊。



世界を揺るがす国際情勢や経済事情、紛争と諸問題のエポックのなかから地理的・要因のあるテーマを選び、地図や図解をつかって地政学的にひも解いた一冊。

「知っている」と大学受験でちょっと得する情報」を紹介します

大学受験の現代文頻出の作家さんと本を紹介します。少し内容が難しいですが、そのような文章を読むことに慣れておくことで本番で焦らずに問題を解けるようになるかもしれません。

鷲田 清一：『「待つ」ということ』『わかりやすいはわかりにくい？臨床哲学講座』

小林 秀雄：『新装版 考えるヒント』『ドストエフスキイの生活』

養老 孟司：『バカの壁』『「自分」の壁』『唯脳論』

池内 了：『科学の限界』『なぜ科学を学ぶのか』『疑似科学入門』

内田 樹：『サル化する世界』『日本辺境論』『寝ながら学べる構造主義』

なかでも池内了さんの「疑似科学入門」では、社会に広まっている疑似科学について言及しています。疑似科学とは科学的で事実に基づいたものであると主張されているにもかかわらず、科学的方法とは相容れない言明・信念・行為のことです。

この本では科学の法則違反／プラシーボ効果／科学的根拠薄弱／統計の悪用／確率による騙し／数字マジック／相関関係を因果関係とする誤用や偶然の過大評価による疑似科学の勘違いや乱用について書いています。なかでも第4章では、地球環境問題の諸相：地球という複雑系／異常気象は温暖化のせい？／二酸化炭素は悪者か、ということについて書いていて一般的に語られていることに対してそれが本当なのかということを疑似科学の観点から説明しています

